



取締役社長
野澤 永光 氏

《 信条 》
ビジネスは誠実に正直に

Q1 会社の強みは何ですか？

A1 植物工場事業に必要な野菜生産ノウハウ、工場運営ノウハウ、流通ノウハウのすべてを活かした経営アドバイスが可能なことが強みです。

Q2 工場野菜はどんな場所に流通？

A2 虫などの異物混入がなくサイズが揃っているの
で、洗浄や調理の手間を低減したい総菜や外
食など中・外食産業で広く利用されています。



た、各制御項目の詳細なデータがパソコンでも確認でき、栽培環境の管理や遠隔操作も可能となった。

「これまでと同じコストで生産量を大幅に増加することができました。また、このノウハウを活かした新しい植物工場設備の開発も行っています」。

植物工場事業は将来性が高く海外展開も推進中

生産性の向上による収益の増加を実現した同社では、今回の事業で構築した栽培技術レシピを元に、野菜生産・販売、植物工場装置の販売のほかに新たに植物工場の運営アドバイス及びコンサルティングのサービスを新事業として開始した。野菜生産に厳しい環境にあるロシ



取締役社長 / 野澤 永光

所在地 / 宮城県多賀城市桜木3-4-1 みやぎ復興パークF30

T E L / 04-7192-6655(本社)

事業テーマ

【27年度補正】
IoTを活用した「儲かる植物工場」を実現する、
多賀城発の生産管理システムの開発



アや中東、また近年、生野菜を食す文化が浸透してきた中国などをターゲットに海外展開も推進中である。



**安心・安全な高品質野菜を
天候に左右されず計画生産**

LEDを使った人工光型植物工場によって、レタスやバジルなど葉物野菜生産を展開するMIRAI株式会社。植物工場による生産は露地野菜に比べ土地面積あたりの生産性は非常に高く、外気に触れないため農薬不使用で虫などの異物混入もなく安心・安全。天候にも左右されないことから安定した価格と生産量で高品質の野菜を計画生産することができ、同社では長年培った生産ノウハウと運営ノウハウを活かし、野菜の生産販売のほか独自開発の野菜工場設備の販売や事業コンサルティングを手掛け、新たに工場運営コンサルティング事業も展開している。

**経営が難しい植物工場事業
環境レシピに磨きをかける**

国の後押しもあって多くの事業



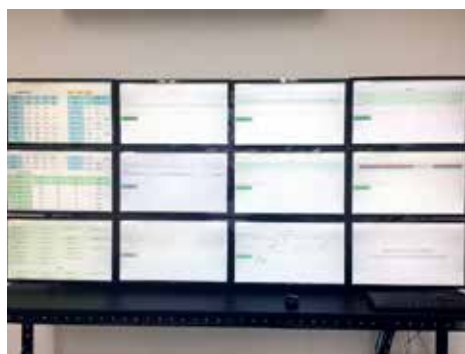
者が植物工場事業に参入しているが、一方で工場の管理・運営の難しさや生産コストなど壁も高く、多くの事業者が経営に苦しんでいる状況にある。同社では植物工場のトップランナーとして、野菜の生産販売や野菜工場設備販売を行ってきたが、さらなる生産性の向上と低コスト化を目指し、同社が独自開発した栽培環境レシピのブラッシュアップを図った。

「野菜栽培には約200項目の要因が影響しています。このノウハウをさらに磨き、収益性の向上と植

物工場設備販売の加速を目指すためにIoTシステムを導入しました」と取締役社長の野澤永光氏は話す。

**野菜栽培環境の見える化と
データ解析で生産性を向上**

導入したIoTシステムでは、センサーやカメラなどの計測機器によって得られる測定値を解析ソフトによってリアルタイムに分析。これによって作物ごとの最適な環境レシピを確立することが実現した。ま



FILE.21

IoT導入で野菜工場の未来を切り開く